

環境教育 「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋 賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878



丁沢池袋駅東口より南へ約500m 目白駅より東へ約600m。ビッグターミナル池袋駅から最先端のワンマンで秒速100km/hを抜く音が、残る雑司が谷界隈へ緑豊かな参道から境内へ入ると、そこはもう別世界です。境内の駄菓子屋、上川口屋も良く、このおぼろぎと誇りのかけらがあります。

お酒落は街並みと隣合わせに歴史が語りかける。停まることがある。

一人歩きを始める、今日は君の卒業式、そんなふうには始まり、さびしきさびしき歌がある。恋の終りを描いた作詞家とさびしき自身、身が解説している。どうしようもない一つの区切りであり、悲しいまよう、弾むまようは響きがある。それが卒業に例えられた理由だそう。誰かが自分の学校時代を思い浮かべ、納得するだろう。



上川口屋
荒川線(都電)



送辞に答辞、合唱に涙流した学校が、違っても共通する体験、だからこそ、比喩が成り立つわけだ。歴史社会学者である有本真紀之の著書「卒業式の歴史」によれば、義務教育での盛大な卒業式は、日本特有の学校文化なのだという。当初は例え、小学校から卒業試験の当日、合格者に証書を渡す終り、たまたま明治の半ばには、すでにいまのような形の式次第がほぼできあがっていた。最も成功した儀式は、平成30年、平成31年3月には、学びやから卒業を祝う歌が無事に響き、かくみしめたいの喜びを



面子有名店舗
菜鴨とけめき地蔵

